

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2019年2月NO.45

# SMILES

<https://www.childfund.or.jp>

## 格差の中に暮らす チャイルドたち



収穫されたバナナとピーター。日本で食べられるバナナはほぼすべてが海外から輸入されたものです。そのうち8割以上はフィリピンから輸入されています。

**ChildFund**  
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



# 格差の中に暮らす チャイルドたち



日本で報道されるフィリピンのニュースは、経済やビジネスに関わるものが多いようです。ASEAN(東南アジア諸国連合)に加盟し、「経済成長を続ける国」というイメージが根付いてきました。また近年は、ドゥテルテ大統領についての報道も多く見られるようになりました。それも、フィリピンの国際社会での地位の向上を表しているのかもしれませんが、いずれにしても、多くの日本人にとって、フィリピンのイメージはアジアの貧しい国という認識ではなくなってきているようです。

他方で、チャイルド・ファンド・ジャパンの活動を支えてくださる皆さまにとって、フィリピンと言えば「チャイルドが暮らす国」なのではないでしょうか。支援を受けるチャイルドたちは一生けんめい勉強し、家のお手伝いをこなし、スポンサーシップ・プログラムの活動に参加し、日々生活しています。そこは、田舎の農村や漁村であったり、あるいはスラム街のような地域であったり、いかにもアジアの貧しい国です。

実際のところ、現在のフィリピンは経済成長を続ける国でもあり、同時に、チャイルドたちが暮らす貧しい国でもあります。同じ国の中に、経済的に発展した地域でその恩恵を受ける人々もいれば、発展に取り残された地域で経済的に厳しい生活を強いられている人々もいます。そのような経済的な格差や不平等は、国全体が成長するにつれて大きな社会問題となってきています。今回の特集は、「格差の中に暮らすチャイルドたち」です。協力センター48に在籍する2名のチャイルドの暮らしをご紹介します。フィリピン国内に残る貧しさと経済的な格差を取り上げます。





## アイヴィルと7年前の台風

17歳、9年生のアイヴィルはミンダナオ島の北部の東ミサミス州に暮らしています。努力家で、学校でも優秀な成績を修めています。2017年に行われた「子ども会議」ではセンター48の代表に選ばれて参加し、活動報告の発表などを行いました。アイヴィルが勉強をがんばるモチベーションとなっているのは、家庭の貧しさです。父親は仕入れた農作物の販売などをしていいますが、定期的な仕事には就いていません。母親が洗濯などの仕事をして得るわずかな収入で生活必需品の支出をまかっています。水道が通っていないため、

共同の水源からくんだ水を

家の前のドラム缶に貯めて、調理などに使っています。



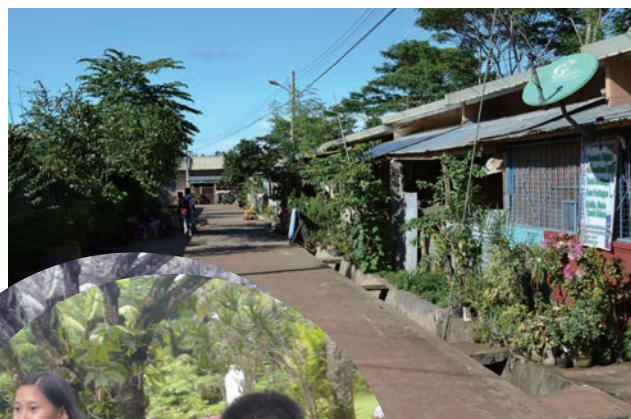
調理にも洗濯にもドラム缶に貯めた水を使っています



両親と家の前で

アイヴィルの家族がこれほど厳しい生活を強いられている理由の一つは、7年前にこの地域をおそった台風です。2011年12月に台風21号がセンター48の活動地域を直撃し、1名のチャイルドが行方不明になるなど、チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を受ける子どもや家族にも甚大な被害をもたらしました。台風によって大規模な洪水が発生し、アイヴィルの家族が暮らしていた家はあとかたもなく流されてしまいました。チャイルド・ファンド・ジャパンから緊急支援物資や衣類などの配布、こころのケアなどの支援を受けましたが、アイヴィルの家族は元の生活を失い、現在暮らしている地域への移住を余儀なくされました。

台風などの自然災害は、貧困層に「より大きな」影響をもたらします。アイヴィルが暮らしていた質素なつくりの家は流されてしまいましたが、同じ地域の高台に建てられた頑丈な家屋は、大きな被害を受けずに済



台風の被害を受けた世帯が移住した再定住地域にアイヴィルの家族も暮らしています

「みんなで守る子どもの権利プロジェクト」の一環として開催された、子ども会議でのワークショップ

みました。また、自然災害は貧困層に「より長い」影響をもたらします。世界銀行の報告書\*には、「自然災害によって、貧しい人々は貧困の罠に捕えられてしまうことがある」と書かれています。特にフィリピンは世界で最も災害が起こりやすい国とも言われており、自然災害はフィリピン国内の経済格差を拡大する要因の一つになっています。自然災害の被害を最小限にとどめられるよう、チャイルド・ファンド・ジャパンは防災への支援を行っています。被害から速やかに立ち直る力をつけることで、緊急時の一時的なショックを軽減するだけでなく、長期的な格差の拡大を抑制する役割も果たしています。

\* Making Growth Work for the Poor: A Poverty Assessment for the Philippines, IBRD/THE WORLD BANK, 2018



左ノトタン板などでつくられた家の前で。ピーターはお父さんの身長を越しました



かまどは家の外にあります

## ピーターとお米の価格

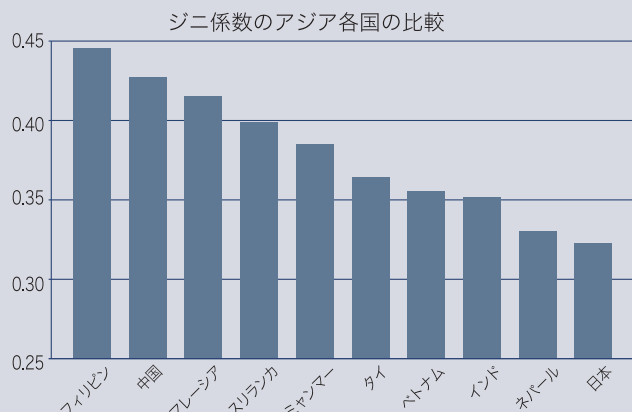
経済的な変化によって、貧富の差が拡大することもあります。例えば、食料品や生活必需品の価格の高騰は、富裕層よりも貧困層に大きなマイナスの影響を与えます。近年フィリピンで生じているお米の価格の高騰は、まさに貧しい人々の生活に大きな打撃を与えました。「お米が高くなって本当に困っています」とチャイルドのピーターは話します。12年生のピーターは、

仕事をしている両親に代わって料理や洗濯、掃除などほとんどすべての家事を担っています。学校と家の手伝いで忙しい毎日ですが、ハイスクールを卒業することを心に決め、勉強に励んでいます。「将来は警察官になって両親の生活を助けたい」とはきはきとした口調で話します。

お米を研いで、家の外にある薪のかまどで炊くのもピーターの役割です。おかずは少しでご飯でお腹を満たす、というのは、ピーターの家の食卓に限ったことではありません。フィリピンの貧しい家族においては、お米は摂取カロリーとしても大きな割合をしめしますが、同時に、家計の支出においても大きな割合をしめています。そのため、近年のお米の価格の上昇は、栄養面でも経済面でも、フィリピンの貧困層に深刻な影

## データで見るフィリピンの経済成長と格差

フィリピンは堅実に経済発展を続けています。経済成長の指標として使われることの多い一人当たりGDP(国内総生産)は、右肩上がり成長しており、2000年以降の20年弱で約3倍に増加しました。他方で、フィリピンはアジアの中でもっとも経済格差が大きい国の一つとしても知られています。格差や不平等を測る指標はいくつかありますが、代表的な指標であるジニ係数で見ると、フィリピンの格差が大きいことがわかります。(ジニ係数は0から1の値をとり、値が大きいほど不平等度が高いことを表します。)経済成長は必ずしも貧困の削減を意味しません。平均値としての一人当たりGDPが増加していたとしても、すべての国民が平等にその恩恵を受けているわけではないからです。経済格差の大きいフィリピンでは、他の東南アジアの国々と比べて、貧困削減のスピードが遅いことが知られています\*。



データ出所:世界銀行「World Development Indicators」、ジニ係数は各国ごとの最新の値  
\*Making Growth Work for the Poor: A Poverty Assessment for the Philippines, IBRD/THE WORLD BANK, 2018





食事の様子。忙しい時は立って食べることも

響を与えています。じっさい、ピーターの家族のお米の消費量は、価格が上がる前と比べて約30%も減ってしまいました。センタースタッフからのアドバイスを受けながら庭で栽培している野菜を食事に取り入れることで、食事の量と栄養を確保しています。



アイヴィルの学校の表彰式



アイヴィルとお父さん

## 経済格差を乗り越えるために

アイヴィルの通う学校では、学期ごとに成績優秀者の表彰式が行われています。今学期も優れた成績を修めることができたアイヴィルは、名前を呼ばれてステージに上がり、全校生徒の前で表彰されました。表彰式を見るために学校に来ていたお父さんも、嬉しそうに目を細めてアイヴィルを見つめます。アイヴィルに将来の夢についてたずねると、「医師になって家族に楽な生活をさせたい」と答えました。アイヴィルもピーターも、自分の未来を明るく変えられると信じています。経済的に貧しい家庭で育ったチャイルドたち

が環境に屈せず、大きな目標を持ち、日々努力しているのは、スポンサーの皆さまやセンタースタッフからの励ましがあるからです。フィリピンという格差の大きい国で暮らすチャイルドたちが、教育によってその境遇を乗り越えられることを願っています。

## ■ 貧しいのに太りすぎみ？

フィリピンで支援を受けるチャイルドの中には、「ぽっちゃり」体型の子どもがいます。成長記録の栄養状態で「太りすぎ」と分類されているチャイルドも何人かいます。「たくさんご飯を食われているのなら、支援は必要ないのでは？」というお問い合わせが事務局に寄せられたこともあります。しかし近年では、「貧しい＝痩せている」と単純に言うことが難しくなってきました。つまり、貧しいがゆえに栄養不良となる子どもがいる一方で、過体重となる子どもたちも増えています。この相反するような状況は東南アジアの国々でよく見られ、「栄養過多と低栄養の同時危機」とも呼ばれています。

フィリピン全体の食べ物の摂取の変化を見ると理由が見えてきます。1990年から20年の間に穀物やお米の消費量は大きく増えましたが、果物や野菜、魚などの健康に良いとされる食べ物の消費量はあまり増えませんでした\*。子どもたちが実際に食べているものを見ても、スナック菓子やジュースなど脂肪や糖分が多い物の摂取が増えているようです。スナック菓子などはフィリピンの地方の地域でも、子どもたちがおこづかいで買える

ほど安価で売られています。ぽっちゃりしたチャイルドたちも、少ない支出で効率よくカロリーを摂れるスナックなどをたくさん食べているのかもしれませんが。そして、食品業界の成長や交通網の発達などによって、ジャンクフードが低価格で供給されるようになったとしたら、子どもたちの栄養過多は「経済成長の影」と言えるのかもしれませんが。

\*Regional Report on Nutrition Security in ASEAN – Volume 1, ASEAN Secretariat, 2016



スポンサーシップ・プログラムでは、ビタミンの錠剤を配布する支援も行っています。また、自分の健康を守るという意識を高める栄養教育の取り組みも実施しています。



# 子どもへの暴力のない世界に向けて

「持続可能な開発目標(SDGs)」が2015年9月の国連総会で採択されてから、早くも3年が経ちました。2030年を達成期限とするSDGsには、子どもへのあらゆる暴力をなくすという目標が掲げられています。チャイルド・ファンドは、子どもの権利を推進するために、子どもへの暴力撤廃に向けた取り組みを進めています。



## 子どもたちから託された声

チャイルド・ファンド・ジャパンは支援活動を通じて、子どもたちへの暴力の実態を目の当たりにしてきました。子どもたちは、子どもへの暴力の実態や、子どもたち自身が望む世界について、スタッフに語ってくれました。どのように暴力を減らすかを話していた時、11歳の女の子が「減らすのではなく、なくすんです」と指摘してくれました。子どもたちの声を託された私たちが負う責任を痛感した瞬間でした。こうした声は、世界の子どもたちの声として報告書にまとめられ、日本をはじめとした各国政府や国連に提出されました。

SDGsの目標16.2「子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する」は、世界の子どもたちの声が結実したものです。この目標により、各国政府は子どもへの暴力撤廃のための取り組みを進めています。私たちは、そうした政府の取り組みを後押しするとともに、家庭、学校、地域などあらゆる場面で子どもへの暴力がなくなるよう、子ども、家族、学校などの関係機関と連携して支援事業

を組み立て、実施しています。

その一例として、緊急支援の強化の取り組みがあります。チャイルド・ファンド・アライアンスを含む世界の子ども支援団体は、「人道行動における子どもの保護の最低基準(Minimum Standards for Child Protection in

Humanitarian Action)」を策定しました。紛争や

自然災害の発生時にリスクが高まる子どもへの暴力を未然に防ぎ、また、被害を受けた子どもを守るための国際基準です。また、その日本語訳の作成にはチャイルド・ファンド・ジャパンも参加しました\*1。



\*1 こちらからダウンロードできます。

<https://www.childfund.or.jp/files/cpms.pdf>



## 私たち自身が子どもたちに危害をもたらさないために

グローバル化や通信技術の進歩は、様々な恩恵をもたらす一方で、子どもたちに危害をもたらすリスクもあります。例えば、子どもたちの個人情報や連絡先が悪意をもった人に伝わってしまい、子どもたちがインターネット上の暴力にさらされる可能性もあります。また、子どもたちを守るべき立場にある組織のスタッフによる、子どもへの性的搾取・虐待の不正行為の実態が明らかになったという現実もあります。

チャイルド・ファンドのスタッフや関係者は子どもに危害をもたらすことはないか？ 団体の活動そのものに、子どもをリスクにさらす落とし穴はないか？ こうした問題意識から私たちは、私たち自身を見直すことにしました。その第一歩として、2018年10月に「子どものセーフガー

ディング方針」と「子どものセーフガーディングのための行動規範」を制定、施行しました\*2。

「セーフガーディング」とは、「チャイルド・ファンド・ジャパンに関わる人々、組織運営、事業が、子どもたちにあらゆる形態の危害を与えないことを確実にするために、チャイルド・ファンド・ジャパンが負うべき責任」です。その責任を果たすために、支援事業だけでなく、総務、人事、経理、募金、広報、支援者の方々とのコミュニケーションなどのすべての活動や制度において、子どもへの危害を与えるリスクをなくしていきます。

\*2 ウェブサイトで公開しています。

<https://www.childfund.or.jp/blog/181119csgp>



これから  
に向けて

チャイルド・ファンドの子どもたちへの暴力のない世界に向けた取り組みは、子どもたちへの支援事業と組織強化の両輪で進める体制が整ったところ。皆さまのご理解とご協力を糧に、立ち止まることなく進めてまいります。

# スリランカから vol.19 アーユボーワン

アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」



## 子どもたちに人気のスポーツ

チャイルドたちの成長の記録の中で、好きなスポーツとしてネットボールやクリケットがよく挙げられています。二つとも日本ではあまりなじみがありませんが、イギリス発祥のスポーツで、インドやオーストラリアなどイギリス連邦の国々では一般的です。

ネットボールは、バスケットボールをもとにして女性向けにつくられました。1チーム7人でプレーし、ポジションごとにコート内で動ける範囲が決められています。ドリブルはなくパスだけでボールを回し、ゴールを目指します。

クリケットは、スリランカでもっとも人気のあるスポーツです。野球に似ていますが、グラウンドやバットの形、ルールなどに違いがあります。特徴的なのがその試合時間の長さで、一般的には5～6時間、伝統的な形式では最大5日間にも及ぶそうです。スリランカではテレビでも頻繁に放送され、大人から子どもまで慣れ親しんでいるスポーツです。



スリランカの子どもたちは、小さなころからクリケットに親しんでいます

# ネパールから ナマステ! vol.13

ナマステ:ネパール語で「こんにちは」



## 南アジア初! 子どもへの体罰が禁止へ

2018年9月、ネパールの連邦議会によって子ども法2018が制定され、子どもへの身体的・心理的な罰を処罰の対象とするという条項が追加されました。南アジア地域では初めて、子どもに対するあらゆる体罰が法律で禁止された国となりました。



ネパールでは、子どもは年長者に従うものであり、また、体罰はしつけの一環であるという考えから、親や教師から子どもたちに体罰が行われることがあります。定規などで叩く、耳や髪をひっぱる、頬や腕をつねるといったものが多いようです。大人たちが体罰を受けて育ったため、他のしつけの方法を知らないことも、体罰が繰り返される理由の一つです。

法が整ったとしても、それが人々の間に浸透し、社会が変わっていくのには時間がかかるかもしれません。しかし、子どもへの体罰がもたらす影響を大人たちが理解し、暴力に頼らないしつけの方法を学んでいくことで、長く続いてきた慣習が変わることを期待しています。



お願い

書き損じた年賀状でネパールの子どもたちを支援しよう!



今年も、ネパールの子どもたちが楽しく安心して学べる学校環境を整備するためのキャンペーンを実施しています。ご家庭にある書き損じハガキや年賀状、未使用の切手をぜひお送りください。いただいたハガキや切手は、2015年4月に発生した大地震で被害を受けた、ネパールの子どもたちの教育支援のために活用されます。書き損じた(未使用の)ハガキや年賀状は、10枚で教室で使うざぶとん1つに、140枚で低学年の子どもたちでも使える座卓1つに変わり、ネパールの学校に届けられます。

## 募集しているもの

- 未使用の(書き損じた)年賀状
- 官製(郵政)ハガキ
- 未使用の切手

## 募集していないもの

- ×使用済の切手
- ×私製ハガキ(切手を貼らないと使用できないもの)
- ×外国の切手
- ×テレフォンカード

<書き損じハガキの送付先>

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
チャイルド・ファンド・ジャパン ハガキ係

お知らせ

領収証の発送が完了しました

2018年にいただいたご寄付の領収証の発送が完了いたしました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまには、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けていただくことが可能です。特に個人の方がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付をした場合、最大で寄付金額の約40%を、所得税から控除できます。一般的に、税額控除方式を選択されると所得控除方式より大きな減税効果が見込まれます。詳しくは「寄付金控除について」のページをご覧ください。

<https://www.childfund.or.jp/support/deduct.html>

チャイルド・ファンド・ジャパン 寄付金控除

Q検索

お礼

アンケートへのご協力をありがとうございました

フィリピンのチャイルドの成長の記録をお送りした皆さまに、アンケートのご協力をお願いいたしました。多くの方々からご回答いただき、誠にありがとうございました。皆さまからいただいたご回答やご意見は、今後のサービスや活動の改善に活かしてまいります。

お知らせ

メールマガジンをリニューアルしました!

月に一度、支援者の皆さまにお届けしているメールマガジン「チャイルド・ファンド・ジャパン ニュース」を、10月号よりリニューアルして配信しています。カラフルになり、写真も入って読みやすくなりました。購読をご希望の方は、お名前と6けたの支援者番号、受信されるメールアドレスをnews@childfund.or.jpまでお知らせください。

画像などの入ったメールを受信できない携帯電話では、文字化けが起きてしまい、きちんと表示されないことがあります。そのような場合は、引き続き文字のみの形式でお届けいたしますので、news@childfund.or.jpまでお知らせくださいますようお願いいたします。

Ch<sup>id</sup>Fund  
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは  
ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に  
基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに  
開かれた未来を約束する  
国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる  
国際協力を通じて  
子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

Ch<sup>id</sup>Fund  
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドだより SMILES> 2019年2月発行

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン  
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
理事長/長山信夫 事務局長/武田勝彦  
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730  
E-mail:childfund@childfund.or.jp  
URL:https://www.childfund.or.jp/

<デザイン>  
モステザイン研究所  
(印刷)  
有限会社東西印刷

